

日本历史

JAPANESE HISTORY

主编 张如意

高等教育出版社



日本历史

JAPANESE HISTORY

主编 张如意

编者 太阳舜 史艳玲

张小苑 吕楠 陈斯



高等教育出版社·北京

图书在版编目(CIP)数据

日本历史: 中文、日文 / 张如意主编. — 北京:
高等教育出版社, 2018.1

ISBN 978-7-04-049116-6

I. ①日… II. ①张… III. ①日本-历史-高等学校
-教材-汉、日 IV. ①K313

中国版本图书馆CIP数据核字(2017)第313252号

策划编辑 张博学 责任编辑 张博学 封面设计 张申申 版式设计 孙伟
责任校对 巩婕 责任印制 赵义民

出版发行	高等教育出版社	网 址	http://www.hep.edu.cn
社 址	北京市西城区德外大街4号		http://www.hep.com.cn
邮政编码	100120	网上订购	http://www.hepmall.com.cn
印 刷	北京盛通印刷股份有限公司		http://www.hepmall.com
开 本	880mm×1230mm 1/32		http://www.hepmall.cn
印 张	10.125	版 次	2018年1月第1版
字 数	236千字	印 次	2018年4月第2次印刷
购书热线	010-58581118	定 价	35.00元
咨询电话	400-810-0598		

本书如有缺页、倒页、脱页等质量问题, 请到所购图书销售部门联系调换

版权所有 侵权必究

物 料 号 49116-00

编写前言

随着社会的发展和国际形势的变化，国家对外语人才的需求也正在发生很大的变化。高校外语人才培养模式正在由过去的强调“专业”向强调“综合”转型。具有综合素质的高水平外语人才成为高校外语专业人才培养的一个基本目标。虽然关于什么是具有综合素质的高水平外语人才，存在着不同的阐释，但是，良好的人文素养、精湛的外语能力、正确的判断能力和良好的国际视野应该是其中必备的条件。要培养出这样的人才，就必须使学生除了学好外语之外，还要了解所学语言的对象国家或民族的历史和文化等知识内容，而事实上，如果不了解所学语言的对象国家或民族的历史和文化，也谈不上学好该种外语，当然也就很难成为一个具有综合素质的高水平外语人才。我们《日本历史》的编写目的和理念也正在于此。

在编写前，编写人员对全国高校所使用的日本历史教材做了较为详细的考察，发现该类教材数量偏少、版本偏旧，而且针对性不强，不太适合日语本科阶段使用。因此，我们确定编写的原则力求简明，本教材具备以下几个特点：

- (1) 教材的适用范围和对象明确，针对性强。以本科生尤其是日语中、低年级学习者对象，在配合基础日语教学的同时，扩大知识面和增强对日本历史文化的了解。
- (2) 坚持编写者和阅读者的主体立场。运用辩证唯物主义和历史唯物主义的立场观点统一驾驭教材内容。既要坚持尊重学术的观点，又要坚持中国人的立场。

- (3) 在形式上突出教材的简洁明快，便于记忆的特点。章节设置清晰明确，脉络分明。
- (4) 使用语言通俗易懂。在语言描述上照顾基础学习者的特点，选择通俗易懂的词汇，对部分汉字增加假名注音。
- (5) 采用双语编写，后附汉语译文。一方面利于学习者尽快掌握，还可供学生作为翻译练习使用。

基于以上特点，该教材既可应用于高校日语专业的本科教学或课外读物，也可以作为教师的教学参考用书，同时也可以满足社会上一般读者需要。

本教材各章节内容由以下几位老师分别负责编写：史艳玲（第一章4、5节）；吕楠（第二章）；陈斯（第三章）；太阳舜（第四章）；张小苑（第五章）。同时在该教材的编写过程中，得到了河北大学领导和教务处负责人的大力支持，同时也得到了高等教育出版社编辑的大力帮助，在此一并致谢。

由于水平有限等原因，教材中难免存在不足，敬请各位专家和广大读者批评指正。

编者

2017年10月



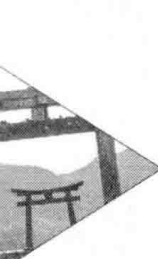
目次 (日文版)

第1章 原始と古代社会	001
第1節 原始社会	002
第2節 大和政権と古墳文化	006
第3節 律令国家の成立	010
第4節 律令体制の発展と衰退	018
第5節 摂関政治と荘園・武士団	026
第2章 中世	035
第1節 院政と平氏政権	036
第2節 鎌倉幕府の成立と衰退	040
第3節 武家社会の転換と室町時代	051
第3章 近世	069
第1節 幕藩体制の確立	070
第2節 幕府政治の展開	079
第3節 幕藩体制の動揺	088
第4章 日本の近代	107
第1節 明治の新政	108
第2節 日本の文明開化	117
第3節 軍国主義への歩み	120
第4節 産業革命と社会の変化	124
第5節 第一次世界大戦と日本の拡張野心	128
第6節 民衆の登場	130

目次

iv

第7節	第二次世界大戦への道	134
第8節	中国侵略と太平洋戦争	138
第5章	戦後の日本	145
第1節	占領と民主改革	146
第2節	冷戦と安保体制	150
第3節	高度経済成長と生活革命	154
第4節	経済安定期とバブル経済期	161
第5節	バブル崩壊後の日本	167



目录 (中文版)

第 1 章 原始和古代社会	175
第 1 节 原始社会	176
第 2 节 大和政权和古坟文化	179
第 3 节 律令国家的成立	182
第 4 节 律令体制的发展与衰退	187
第 5 节 摄关政治与庄园武士集团	193
第 2 章 中世	199
第 1 节 院政和平氏政权	200
第 2 节 镰仓幕府的成立与衰退	204
第 3 节 武家社会的更迭与室町时代	213
第 3 章 近世	227
第 1 节 幕藩体制的确立	228
第 2 节 幕府政治的展开	235
第 3 节 幕藩体制的动摇	243
第 4 章 近代日本	259
第 1 节 明治新政	260
第 2 节 日本的文明开化	267
第 3 节 迈向军国主义	270
第 4 节 工业革命和社会变化	273
第 5 节 第一次世界大战和日本的扩张野心	276
第 6 节 人民大众登上历史舞台	278

目录

vi

第7节 第二次世界大战	281
第8节 侵略中国与太平洋战争	284
第5章 战后的日本	291
第1节 占领和民主改革	292
第2节 冷战和安保体制	295
第3节 高速经济增长与生活革命	298
第4节 经济安定期和泡沫经济期	304
第5节 泡沫破裂后的日本	309

(日文版)

第1章

原始と古代社会

第1節

原始社会

① 日本列島の形成と古代日本人の誕生

今の本州・北海道・九州・四国を主とした日本列島は約1万年余前の最後の氷河期ひょうがが終わろうとする時期まで、アジア大陸と地続きでつながっていたと思われる。その頃の日本列島にはナウマンゾウ・マンモス・オオツノジカなどの大型の動物がやってきたが、人類もこれらの群れを追いながら移り住んだと思われる。そういう人々は、最も早く日本列島に遷うつって暮らした人間とも言えよう。

ところで、約1万5千年前頃を境に地球は温暖化へ向かい、氷河はとけて海面が上昇し、陸続きりくつづが海水に覆われ、大陸から切り離されて日本列島が形成された。大陸との往来が途絶えると、日本列島に暮らした人々の文明・社会も大陸とは異様な展開を見せ始めた。

② 縄文時代の社会と文化

約1万2千年前に、日本列島に暮らした人々はすでに土器どきの使用と磨製石斧せいせきや弓ゆみなどの道具を使うことができ、定住性の高い狩猟・採集生活をした。それを特徴とする文化を使用された縄文土器じょうもんどき¹にちなん

¹ 縄文土器は、燃った紐あるいはこれを棒ぼうにまいたものなどを土器の表面で回転させてつけた縄文を施すものが多い。

で、縄文文化¹という。それからおよそ紀元前3世紀までの期間を縄文文化時代と呼ばれる。

縄文時代の社会は、約1万年の長期にわたって緩やかな発展をたどった。人々は、床が地面よりも低い^{ゆか} 竪穴住居^{たてあな}を作って定住生活をした。ふつう数軒の竪穴住居が集まり、集落を作って集団で暮らした。集団の統率者はいたが、貧富の差や階級差は著しくなく、人々は共同で働き、収穫物を平等に分け合う社会を営んでいたと考えられる。厳しい自然と戦う中で、集団のまとまりや秩序が大事にされ、自然への畏敬^{いけい}から、動植物だけでなく、あらゆる自然物や自然現象に精霊^{せいれい}が宿^{やど}っていると考えられ、信仰された。

③ 農耕社会の誕生と弥生文化時代

紀元前3世紀に中国では秦^{しん}が国家を統一し、続いて興^{かん}った漢は、強力な国家制度を確立するとともに、今日の朝鮮の西北部にも楽浪郡などの4郡を設置して支配下においた²。これを少し前に、中国大陸の農耕文明も朝鮮半島あるいは中国の沿岸部を経て日本列島に伝わっ

¹ 縄文時代は、弥生時代のはじまる前4世紀頃までの約1万年間続いた。この時代は土器の型の変化を基準にして、草創・早・前・中・後・晩の6期に区分する。草創期の隆起線文^{りゅうきせんもん}や爪形文^{つめがたぶん}をもつ最古の土器は、旧石器時代末期に発達した細石器とともに出土することがある。放射性炭素¹⁴Cによる年代測定法によれば、草創期の長崎県福井洞穴^{ふくい どうけつ}の年代はいまから1万2700±500年前、早期の神奈川県夏島遺跡^{なつしま}のそれは9240±500年前にあたる。

² 紀元前108年、漢の武帝は朝鮮の北半を征服して、楽浪・真番^{しんぱん}・臨屯^{りんとん}・玄菟^{げんと}の四郡を置いた。楽浪郡は、いまの平壤^{ピョンヤン}を中心と推定された地域である。

てきた。紀元前4世紀ころ¹、^{とうさく}稲作農業と金属器の使用を特色とする新しい文化が九州北部を中心に起こり、紀元前3世紀までに西日本一帯に広がった。縄文土器に変わって、^{やよい}弥生土器が使われたところから²、こうした文化を弥生文化と呼ぶ³。

水稻農業は、弥生時代前期には、西日本一帯に急速に広まり、伝播の波の一部は、ほぼ同時期に東北地方北部にまで達した⁴。やがて中期以降には東日本でも広く稲作が普及した。農耕は採取経済と異なっていて、人々が自然に働きかけることによって、食料を計画的に生産できるので、生活の安定度は著しく高まった。それで、日本列島は原始社会から、農業社会に変わった。

農業の発展によって社会関係にも変化が生じた。治水・^{かんがい}灌漑には、集落間の共同作業が必要であったから、中小河川の水系に沿った多くの集落を合わせた地域を統率する^{しゅらう}首長が現れ、地域集団をま

¹ 弥生時代の年代は、青銅器や土器などの文化要素を大陸のものと比較することによって導き出され、紀元前4世紀から紀元後3世紀頃までと考えられている。しかし、とくに始まりの年代については、比較できる資料が少なく、依然として不確実な部分がある。ごく最近では、遺跡出土の炭化物に残る放射性炭素¹⁴Cの量をきわめて精密に測定するAMS炭素14年代法や、出土樹木の年輪幅の変化から年代を割り出す年輪年代法などを併用して、弥生前期の始まりが前8世紀にさかのぼるとする新たな見解も示されているが、研究者の間で賛否両論がある。

² 弥生土器の名は、1884（明治17）年に東京の本郷弥生町向ヶ丘貝塚（現在の東京都文京区弥生2丁目）で発見された土器の発見地名にちなんでのちにつけられた。縄文土器と比べると装飾は簡素であり、回転体の形を基本とし、^{まかかく}幾何学的な文様を施すか無文のものが多い。弥生時代は土器の型式の変化を基準にして、前・中・後の3期に区分する。

³ 近年、佐賀県菜畑遺跡、福岡県板付遺跡、岡山県津島江道遺跡などで、従来は縄文時代晩期後半とされてきた土器をともなう水田遺構が発見されるようになった。西日本のごく一部で先駆的に水稻農業が始まったこの段階を、縄文時代とみるか弥生時代早期ととらえ直すかについては意見が分かれている。

⁴ 青森県の砂沢遺跡では弥生前期、同県垂柳遺跡では弥生時代中期の水田が発見された。

とめた。地域集団の首長は、共同作業を指揮したり農耕祭祀を司るだけでなく、他の集団との公益や争いでも主要な役割を果たして政治的権限を強めた¹。地域集団同士の間で耕地や用水路や交通路、さらに交易品の供給ルートなどをめぐって対立・抗争が繰り返され、この戦いに勝利を収めた有力な地域集団は、他の集団を支配して小国を作ったと考えられる。こうして日本社会はいよいよ原始社会を脱皮して古代国家の誕生に向かい始めた。

④ 現在の日本人の起源

縄文時代の遺跡は、北海道から沖縄に至る各地に広がっているが、ここから出土する人骨は、ほぼ同一の人種的特徴を示している。日本人の祖型とも言えるもの（原日本人）がこの時代に形成されたが、それはアジア大陸南部の古モンゴロイドの系譜をひく。その後、弥生時代や古墳時代に中国・朝鮮等から渡来した新モンゴロイド系の人々との混血、及び生活条件の変化等によって、現在の日本人が形作られたと考えられる²。

また、日本語にはユーラシア大陸北部のウラル・アルタイ語族の言語と南方系の言語とのつながりのあることが認められる。このことは、古時代に、北・南両方面との結びつきがあったことを示すと考えられる。

¹ 地上水位が高いため湧水が多く、大がかりな灌漑水路を必要としない水田。開田は容易であるが、収穫量は少ない。

² 青森県三内丸山遺跡では多くの竪穴住居跡とともに巨大な柱を用いた掘立柱建物跡も発見され、共同労働を組織して大規模な土木工事が行われたことを物語る。

第2節

大和政権と古墳文化

① 小国の分立と邪馬台国

中国の史書『漢書』^{かんじょ}地理志^{ちりし}によると、紀元前1世紀ごろ、倭人の社会は百余国に分かれ、漢が朝鮮半島においた^{らくろうぐん}楽浪郡に定期的に使者を送っていたという。また、『後漢書』^{ごかんじょ}東夷伝^{とういでん}には、紀元57年に倭^なの奴国の王の使者が、後漢の都^{らくよう}洛陽にいき、光武帝^{こうぶてい}から印綬^{いんじゆ}を与えられ、紀元107年にも、別の倭国の王が^{せいこう}160人の生口^{せいこう}を後漢^{あんてい}の安帝に献上したことが記されている。紀元前1世紀ごろから紀元1世紀ごろ、九州北部から西日本の各地に多数の小国が分立しており、小国の王らは、中国や朝鮮半島の先進文化を取り入れ、中国皇帝に支持を得て自分たちの地位を権威付けるために、使者を派遣したのである。

『魏志』^{ぎし}倭人伝^{ぎし}によると、日本では紀元2世紀の後半に戦乱が続いた³ので、諸国は共同して卑弥呼^{ひみこ}という女王を立て、邪馬台国^{やまたい}を中心とする約30国からなる連合体を作った。記録によると、239年以来、邪馬台国は度々魏に朝貢し、卑弥呼は「親魏倭王^{しんぎわおう}」の称号を受け

¹ 生口は本来「生きている人」の意味であるが、捕虜または奴隷の意味に用いられることが多い。ここでは奴隷とする説が有力である。

² 正式名は『三国志』の『魏書』の東夷伝倭人条。3世紀末に晋の陳寿^{しん ちんじゆ}によって編纂^{へんさん}された。

³ このことを示す遺跡が高地性集落である。見晴らしのよい丘陵や山頂にあり、砦や見張り台の役割をはたしたと推定される高地性集落は、弥生時代中期と後期の2時期に多く営まれた。このうち後期のものが、『魏志』倭人伝に記された戦乱状況を示すものと考えられる。

取ったが、248年ころ死んだ。卑弥呼の死後、男王が立ったが内乱が起こった。そこで一族の女性^{いよ}壺与があとを継いで王となると、乱はおさまった。壺与は、再び魏や次^{しん}の晋に使者を派遣した。しかし、それ以後、1世紀半の間、中国の史書には倭との交渉のことは見えない。

② 大和政権の成立と発展

紀元3世紀ごろ、近畿中部から瀬戸内海沿岸にかけての地域で古墳^{こふん}が出現した。有力な古墳の多くは、墳丘^{ふんきゅう}の形、埋葬施設構造、副葬品などに強い共通性を持っている。とくに巨大な古墳は奈良盆地に多く作られた。これらのことから、この頃に大和^{やまと}の首長たちを中心とする広範囲の政治連合である大和政権が成立したと考えられる。

大和政権は、まず畿内^{きない}地方を基盤とし、以後しだいに勢力を東西に伸ばした。古墳の分布から考えると、その勢力は、4世紀末ごろまでに、九州南部から東北地方南部まで広がったらしい。5世紀に自ら^{おおきみ}大王と称する首長ができて、政権は強大となり、5～6世紀の頃、九州南部の熊襲^{くまそ}や東北地方南部の蝦夷^{えみし}もしだいにその支配下に入った。

大和政権は、大王を中心に、大王家と大和・河内^{かわち}やその周辺の豪族によって構成される。豪族は、それぞれ血縁を中心として、氏^{うじ}という組織を作って大和政権に仕えた。この氏の代表者^{うじのかみ}を氏上、成員^{うじびと}を氏人と言う。大王は氏に大和政権内での地位^{かた}を示す姓を与えて、組織・統制した。大和政権やそれを構成する豪族^{れいぞく}に隷属して、直接生産に従事する人々を部民^{べみん}という。部民の他に奴^{やつこ}というさらに身分

に低い隷属者もいた。

③ 古墳文化時代

3世紀後半頃に出現した古墳は、大和政権の政治連合に参加した首長しゅちやうや有力層りゆうりくそうの墳墓ふんぼであった。古墳が盛んに築かれた3世紀後半から7世紀を古墳文化時代という¹。

古墳には形から見て前方後円墳ぜんぽうこうえんふん・前方後方墳ぜんぽうこうほうふん・円墳・方墳などがあり、それぞれに様々な規模のものが存在する。墳墓の形と規模で被葬者の地位や権力の大きさを示す仕組みが生まれ、日本列島の広い範囲に及んだことが、この時代の大きな特徴である。また、古墳には、初期（3世紀初期～4世紀末）・中期（5世紀初期～5世紀後半）・後期（6世紀～7世紀）の3期に分けられる。墳墓の形、大きさや副葬品などから、政治、社会、経済などの変貌が見られる。

前方後円墳は6世紀末には築かれなくなった。群集墳ぐんしゅうふんの造営も7世紀半ばになると下火したびになり、以後、古墳の築造は近畿中央部のごく一部の有力者だけに限定されていった。東日本の一部では近畿地方よりも遅くまで古墳の築造が続いたが、8世紀にはほぼ消滅した。

¹ 近年、弥生時代後期の大型の墳丘をもつ墓が発見されつつあるが、一般に前方後円墳の出現する時期以降を古墳時代として区別する。古墳時代とは、古墳築造がさかんに行われた3世紀後半から7世紀末までを指すが、古墳のさまざまな要素の変化から、前期（3世紀後半から4世紀）、中期（4世紀末から5世紀）、後期（6世紀から7世紀）の3期に区分することが多い。また、後期のうち前方後円墳がつかられなくなる7世紀は終末期とよばれることもあり、ほぼ飛鳥・白鳳文化の時代と重なる。